



映画を残す、映画を活かす。

国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan

The Discreet Charm of Film Magazines



映画雑誌の



秘かな愉しみ



2019 9/7(土) - 12/1(日) 国立映画アーカイブ展示室 (7階)

月曜日、9月23日(月・祝)～30日(月)は休室です。

開室時間：午前11時～午後6時30分(入室は午後6時まで) ※毎月末の金曜日のみ開室時間を午後8時まで延長いたします。(入室は午後7時30分まで)

料金：一般250円(200円)/大学生130円(60円)/シニア、高校生以下及び18歳未満、障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料

※料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。 * ()内は20名以上の団体料金です。 * 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は入室の際、証明できるものをご提示ください。

※国立映画アーカイブの上映観覧券(観覧後の半券可)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。 * 2019年11月3日(日・祝)「文化の日」は無料でご覧いただけます。

主催：国立映画アーカイブ 協力：群馬県太田市立新田図書館

ホームページ www.nfaj.go.jp Twitter: @NFAJ_PR Facebook: NFAJPR Instagram: nationalfilmarchiveofjapan

写真

上段左から「活動写真界」1911年11月(第26号)、「キネマ・レコード」1916年11月号/「活動写真雑誌」1915年12月号/「映畫時代 アラモード」1932年3月号
中段左から「スタア」1940年11月下旬最終号/「東宝映畫」1938年4月1日創刊号/「新映畫」1945年9月号/「キネマ旬報」1946年3月1日(再建第1号)/「スクリーン」1946年5月創刊号
下段左から「季刊フィルム」1968年10月創刊号/「映畫批評」1970年10月創刊号/「ロードショー」1972年5月創刊号/「アニメージュ」1978年7月創刊号/「映畫秘宝」1995年7月(第1号)

明治時代発行の「活動写真界」や、 100年前に創刊された 「キネマ旬報」創刊号など、 貴重な日本の映画雑誌を多数展示!

本年は、現存する日本初の映画雑誌「活動写真界」の創刊(1909年)から110年、そして現在も続く「キネマ旬報」の創刊(1919年)から100年の節目を迎えます。そこで国立映画アーカイブでは、映画の本をテーマにした「シネマブックの秘かな愉しみ」展(2015年)に続き、映画雑誌の豊かな歴史に焦点を当てた展覧会を開催いたします。

映画が新しい視覚メディアとして普及し始めた明治末期以来、その発達と歩を合わせながら、広範な話題を提供する総合誌、スターや映画会社のファン雑誌、映画の言論空間となった評論誌、製作や興行の動向を伝える業界誌、そして特定の主題に焦点を絞った専門誌など、あまたの雑誌が生み出されてきました。ページを開けば、どの時代の雑誌の誌面にも、映画に対する読者の愛情と書き手の情熱、そして編集者たちの志を認めることができます。

インターネットの普及が情報伝達のあり方を大きく変えた今日、映画雑誌は転機を迎えています。しかし、長い年月の中で培われてきた映画雑誌の役割やスタイルは、様々な変遷を経ながら、今も確実に生き続けています。この展覧会では、明治・大正期から近年まで、多種多様な日本の映画雑誌を展示します。先人たちが情熱を傾け、試行錯誤しながら積み重ねてきた映画雑誌の歴史に触れることで、多くの方々が映画の愉しみを再発見する機会となれば幸いです。

This year marks the passage of 110 years since the inaugural edition of Japan's first film magazine, *Katsudoshashinkai* (1909), as well as the centennial of *Kinema Junpo* (1919), a publication that remains in existence today. To commemorate the occasion, the National Film Archive of Japan is presenting an exhibition spotlighting the rich history of Japanese film magazines. It is planned as a follow-up to a 2015 exhibition titled *The Discreet Charm of Film Books* that focused on movie books.

Over the years since cinema's arrival as a new form of visual media in the late Meiji era (1868-1912), countless magazines have arisen in step with the industry's development. Among them are general magazines covering a broad range of topics, fan magazines devoted to stars and studios, critical magazines providing a venue for cinematic discussion, trade magazines reporting on production and box-office trends, and professional journals focused on specific topics. Open any one of them, regardless of when it was published, and you will undoubtedly recognize and appreciate its readers' love of cinema, its writers' passion for their subject, and its editors' aspirations.

Today, as the internet greatly changes how information is communicated, film magazines are reaching a turning point. However, though transforming in various ways, the roles and styles they have acquired over the years remain distinctly alive. Our exhibition presents Japanese film magazines of all types and descriptions, from the Meiji and Taisho eras to more modern times. We hope that by exposing visitors to the history of film magazines, which are simultaneously embodiments of our ancestors' passions and products of repeated trial and error, it will provide an opportunity for many to rediscover the enchanting qualities of film.

左から「蒲田」1922年7月創刊号、「向島」1923年2月創刊号、「日活 向島改題」1924年2月号、「大帝キネ」1925年1月創刊号、「新興キネマ」1931年12月創刊号、「東宝」1934年1月創刊号、「映画旬報」1941年1月1日創刊号、「映画」1941年1月創刊号、「映画評論」1941年1月号、「新映画」1941年1月号、「映画技術」1941年1月創刊号



「キネマ旬報」1919年7月11日創刊号 群馬県太田市立新田図書館所蔵



橋弘一郎「レイアウト」(1955年)

トークイベント
映画雑誌小講座

9/21[㊥] 日本の映画雑誌事始め
[トーク] 本地陽彦(国立映画アーカイブ客員研究員)

10/19[㊥] 戦後、映画雑誌の黄金時代をめぐって
[対談] 佐藤忠男(映画評論家・日本映画大学名誉学長) × 高崎俊夫(書籍編集者・映画評論家)

11/16[㊥] いま、映画雑誌とは
[対談] 田野辺尚人(「別冊映画秘宝」編集長) × 平嶋洋一(株式会社キネマ旬報DD エディター)

詳細は後日ホームページ
などでお知らせいたします。



長瀬映像文化財団

国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
お問い合わせ: ハローダイヤル 03-5777-8600
国立映画アーカイブホームページ
www.nfaj.go.jp



交通

- ▶ 東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
- ▶ 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
- ▶ 東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
- ▶ JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分